

要 望 書

令和7年11月

新東名高速道路建設促進協議会

(神奈川県・愛知県・静岡県・名古屋市・静岡市・浜松市)

会長 神奈川県知事 黒岩 祐治



要 望 書

高速自動車国道をはじめとする高規格道路網は、国民の暮らしの向上や活力ある国土形成にとって欠くことのできない、極めて重要な社会基盤である。

特に、新東名高速道路は、我が国の社会経済活動の根幹を担う新たな大動脈であり、慢性的な渋滞状況に陥っている東名高速道路と交通機能を分担することで、高速性・定時性を確保するとともに、地震などによる災害発生時には緊急輸送道路として、また、東名高速道路の被災時や維持管理・更新時には、代替路としての役割を果たす重要な道路である。

令和5年9月に山陽自動車道がトンネル内火災事故で長期間通行止めとなった際には、中国自動車道が広域迂回路として機能するなど、多重化された高速道路ネットワークの重要性はますます高まっている。

令和6年8月に南海トラフ地震臨時情報が発表された際には、太平洋岸各地で様々な混乱が生じたところである。大規模災害に強い国土の形成は国の責務であり、切迫性が指摘される南海トラフ地震などの発生により、大きな被害が想定される中、東名高速道路とダブルネットワークを形成する新東名高速道路のミッシングリンクの解消が急務である。

また、国際競争が激化する中、我が国の生産性を向上させ、経済成長と国際競争力の強化を図るためには、国内製造品出荷額等の約4分の1を占める神奈川県・静岡県・愛知県の連携を、更に強化するとともに、多様なストック効果を発現させる新東名高速道路の早期整備が重要である。

これまでに新東名高速道路が開通した区間では、ダブルネットワークが形成され、並行する東名高速道路における渋滞の大幅な緩和や、沿線地域の観光振興及び企業活動の活性化に大きな効果を発揮しているところであるが、こうした効果をさらに高め、一層の経済の好循環につなげていくためにも、引き続き、新秦野ICから新御殿場ICまでの未開通区間の早期整備を図る必要がある。

ついては、新東名高速道路の一日も早い全線開通を実現し、必要な高速道路ネットワークの形成が図られるよう、会員の総意として次の事項について強く要望する。

- 一 新東名高速道路は、我が国の根幹的な社会基盤であり、国の責任において、早期に全線の整備を図ること。

- 一 現在事業中の新秦野 I C～新御殿場 I C間について、トンネル掘進状況を踏まえつつ早期に開通予定時期を示すとともに、工事の安全を最優先として、一日も早い開通を目指し、事業を強力に推進すること。

- 一 暫定 4 車線区間の御殿場 J C T 以東及び浜松いなさ J C T 以西について、6 車線化に向けた本格的な調査を加速し、早期に事業着手すること。

- 一 基本計画区間及び予定路線区間である海老名南 J C T 以東の区間について、早期に計画の具体化を図ること。

- 一 高速道路の利便性向上や地域活性化に資するスマート I C 及び I C アクセス道路の整備推進が図られるよう、必要となる予算を確保する等、積極的に支援すること。

- 一 高速道路ネットワークの着実な整備を実現するため、令和 8 年度予算では道路関係予算を拡大した上で、所要額を満額確保すること。

令和7年11月11日

新東名高速道路建設促進協議会

会 長	神奈川県知事	黒 岩 祐 治
副会長	愛知県知事	大 村 秀 章
副会長	静岡県知事	鈴 木 康 友
副会長	名古屋市長	広 沢 一 郎
副会長	静岡市長	難 波 喬 司
副会長	浜松市長	中 野 祐 介

